つながり

令和8年 10月29日（木）
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
3年 学年だより 11月号

「つどいのために何かを創るのではない」

後期が始まり、子どもたちは「つどい」に向けて活動を進めています。実行委員を中心に、一人ひとりの意見を大切にしながら、みんなが納得できる「つどい」を創ろうとしています。ただ多数決で決めるのではなく「どうしてそう思ったの？」「その意見も入れられないかな？」と、出てきた意見を拾い、つなげながら考える姿が見られます。そんな話し合いの中で、ある子が「つどいのために劇をするのではない」と話しました。この言葉に、子どもたちが今、大切にしようとしていることがよく表れていると感じました。何かを発表することが先にあるのではなく、まず「自分たちは何を大切にしてきたのか」「何に夢中になってきたのか」「それをみんなにどう伝えたいのか」を考える。その上で「じゃあ、どんなことをしたらいいのだろう」と考えていく。そんな順番を大切にしているのだと思います。また「１学期だけがんばって終わりにするのではなく、２学期、そして３学期へとつなげていけるものにしよう」という考えも出てきました。前期の自分たちを振り返り、そこで終わるのではなく、これからの自分たちへとつなげていこうとする姿に、これまでの歩みを大切にしながら、さらに成長していこうとする思いが感じられます。活動が進むにつれて、各チームが考えてきたものを見せ合い、意見を伝え合う場面も増えてきました。そこで出てきたのは「何を伝えたいのか分からない」「声が小さい」「早口で伝わらないよ」といった率直な意見でした。自分たちが一生懸命考え、時間をかけて創ってきたものだからこそ、厳しい意見を受けて悔しい思いをした子もいました。一方で「もう一度動画を撮り直したい。先生、時間をください」と、自分から伝える姿もありました。うまくいかなかったことをそのままにせず、もっとよいものにしたい。自分たちの思いを相手に届けたい。そんな願いが、次の行動につながっていました。「つどい」は、実行委員だけのものでも、各チームだけのものでもありません。自分たちの思いを伝えるだけでなく、相手にどう伝わるのかを考え、仲間の率直な意見を受け止めながら、みんなでよりよいものを創っていく活動です。意見を伝える側にも、相手が一生懸命に創ってきたものを受け止めた上で、どうすればもっとよくなるのかを考えて伝えることを大切にしてほしいと思います。考えの違いに悩んだり、思い通りに進まなかったりすることもあるでしょう。それでも、立ち止まって考え、仲間と向き合うことで、見えてくるものがあるはずです。**「つどいのために何かをする」のではなく、自分たちが大切にしてきたことを、どうすれば相手に届けられるのか。**最後までその問いをもち続けながら、３年生みんなが「やり切った」と思える「つどい」を創っていってほしいと思います。

「せっかく学年で焼津に行くんだよ」

焼津宿泊体験活動に向けた準備も、少しずつ進んでいます。実行委員を中心に、子どもたちは「どんな目当てで活動したいのか」を考えてきました。「自分のことは自分でやる」「このクラスでけがなく、けんかなく行きたい」といった考えに加え「楽しくけがなく終わるのも大切だけど、協力することが大切。だって３年生全員で行くんだから」という声もありました。自分のことを自分で行うこと、安全に過ごすこと、仲間と協力すること。どれも、みんなで宿泊活動を楽しむために大切な考えです。特に、自分たちのクラスだけでなく、３年生全員で活動することに目を向けた言葉からは、学年の仲間と一緒に過ごすことへの思いが感じられました。そんな中、話し合いの流れを変える言葉が生まれました。「この言葉たちも大切だけど、せっかくだから『やいづ』ならではの言葉を目当てにつなげたい」。それまでに出てきた意見を大切にしながら、さらに一歩先へ進もうとする言葉でした。「けがなく過ごす」「仲よくする」「協力する」。どれも大切なことです。でも、それだけなら、ほかの活動でも同じように使える目当てかもしれません。**せっかく焼津に行くのだから、焼津での活動だからこそ大切にしたいことは何だろう。**この問いをきっかけに、話し合いは新しい方向へと動き始めました。そこからは「焼津の海や山などの自然にもふれあいたい」「この集団で仲よくし、絆を深めていきたい」「楽しく過ごすことも大切だけど、学習だからルールを守りたい」といった考えが出てきました。自然にふれること、仲間との絆を深めること、学習としての意味を大切にすること。一人ひとりが目を向けていることは少しずつ違います。でも、違うからこそ、話し合う意味があります。一つの意見だけで決めるのではなく、さまざまな考えを出し合いながら、「自分たちは何を大切にして焼津で過ごしたいのか」を考えていく。そこには、自分たちの活動を自分たちでつくろうとする姿がありました。宿泊活動は、当日を迎えることがゴールではありません。どんな活動にしたいのかを考え、仲間と目当てを共有し、その実現に向けて一人ひとりが行動していく。その積み重ねがあってこそ、自分たちにとって意味のある活動になっていくのだと思います。だからこそ、目当てを決めるだけで終わらせず、活動の中でどう実現していくのかを大切にしてほしいと思います。自分のことを自分で行う。仲間と協力する。焼津の自然にふれる。そして、３年生みんなで過ごす時間を大切にする。**自分たちの活動を、自分たちの手で創っていく。**その思いを、焼津で過ごす時間だけでなく、そこに向かうまでの準備や仲間との関わりの中でも育んでいってほしいと願っています。